

～「R2JAなのはな米品質向上運動」実施中～ なのはな米1等比率95%以上！！

コシヒカリの生育は概ね平年並みで、幼穂形成期(幼穂長2mm)は7月10日頃と推測されます(5月11日田植えの場合)。幼穂長や草丈、葉色など稲体の状況を的確に把握し、適切な穂肥施用や水管理により、品質低下(白未熟粒の発生)を防ぎましょう。

コシヒカリの生育状況

草丈:平年よりやや長い 茎数:平年よりやや少ない 葉色:概ね平年並み

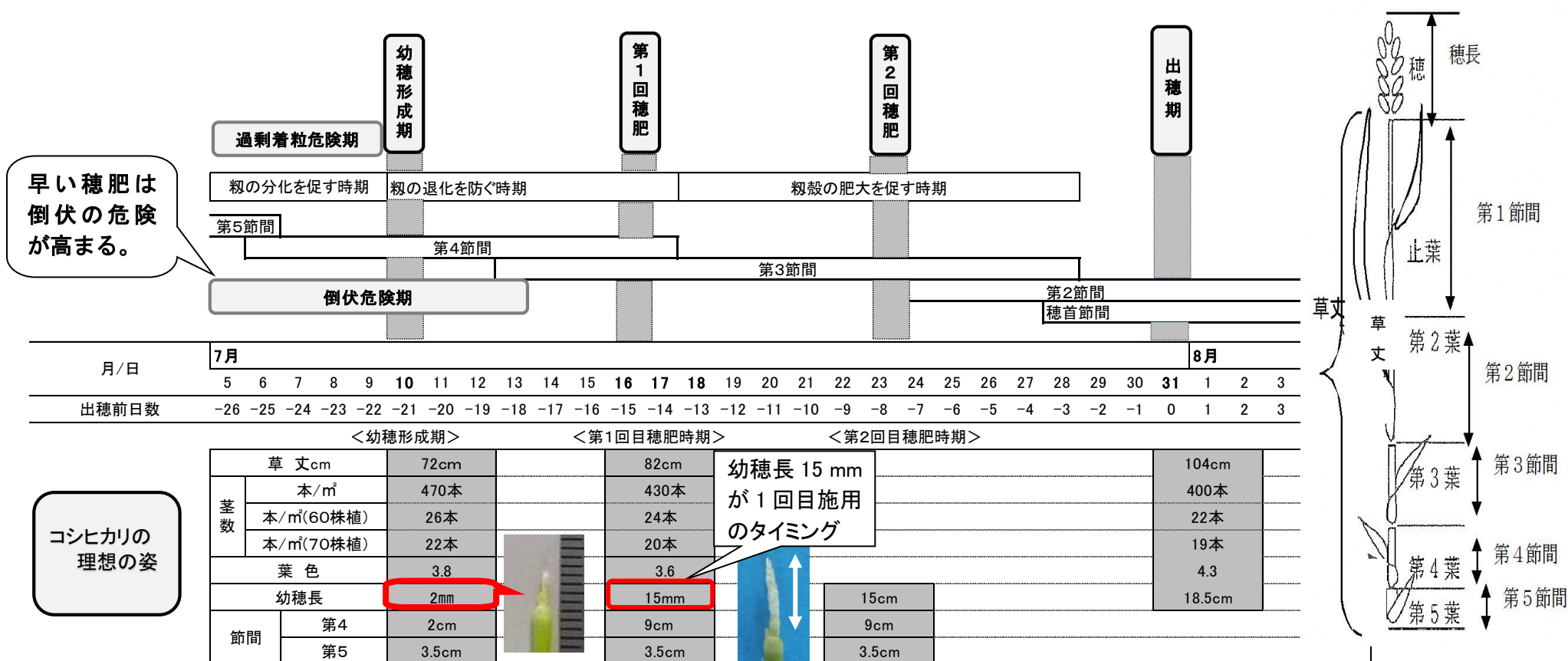
○コシヒカリの生育調査結果

なのはな農協管内コシヒカリ生育基礎ほ(8カ所) 7月6日調査平均

	田植日	草丈	株当たり茎数	m ² 当たり茎数	葉齢	葉色	幼穂形成期	出穂期
R2	5月11日	68.6cm	23.5本/株	447本/m ²	12.2	4.0	(7月10日)	(7月31日)
R1	5月12日	64.9cm	24.4本/株	473本/m ²	11.9	3.9	7月11日	8月1日
平年	5月11日	66.5cm	26.3本/株	463本/m ²	11.9	4.0	7月10日	7月31日

※平年 平成22年～令和1年の平均値

○コシヒカリの幼穂形成期頃の稲姿



1 コシヒカリの穂肥施用

① 肥効調節型基肥肥料を施用している場合

出穂7日～10日前(7月21～24日頃)に必ず葉色を確認しましょう。

このときに葉色が4.0(砂壤土は4.2)以下の場合は、出穂3日前までに「追肥3号」を7kg/10a施用し、登熟期間中の栄養維持を図りましょう。

登熟期間中の活力維持！

② 分施栽培の場合

★生育量別穂肥の目安(田植日:5/11、肥料:追肥3号)

	幼穂長15mmの生育状態			1回目穂肥		2回目穂肥		備考
	草丈	葉色	稲の姿	施用時期	施用量(10a)	施用時期	施用量(10a)	
目標	82cm以下	3.6程度	葉がピンと立つ	7月18日頃	10kg		10～13kg(砂壤土13kg)	
やや過剰	82～87cm	3.7～3.9	葉がやや垂れ気味	7月21日頃	7kg以内	1回目穂肥の7日後	10kg	1回目穂肥を3日程度遅らせ、穂肥量も減らす
過剰	87cm以上	4.0以上	葉がメラメラ	施用しない		出穂7日前(7/24頃)	7～10kg	

※最終の穂肥は出穂3日前までに終わらしましょう。

2 てんこもりの穂肥施用

幼穂形成期は5月10日頃の田植えで、7月13日頃と予想されます。

① 肥効調節型基肥肥料を施用している場合

幼穂形成期以前に葉色が4.0（砂壤土では4.2）以下の場合は、直ちに「追肥3号」を7kg/10a施用しましょう。

また、**出穂7～10日前**（7月末～8月初頃）に**必ず葉色を確認**し、このときの**葉色が4.2以下**の場合は、「追肥3号」を10kg/10a施用しましょう。

② 分施栽培の場合

1回目穂肥は、幼穂長1～2mm 頃に、遅れないように施用しましょう。

○穂肥施用の目安（肥料：「追肥3号」）

穂肥1回目施用時の生育状態			1回目穂肥		2回目穂肥	
幼穂長	茎数（株当り）	葉色	施用時期	施用量	施用時期	施用量
1～2mm	21～25本	4.0～4.2	7月12日頃	10kg/10a	1回目の10日後	12kg/10a

3 今後の水管理

幼穂形成期からは全品種飽水管理を！！

《幼穂形成期から出穂期まで》
～飽水管理で『うわ根』を活性化！～
足跡に水が残る程度になったら入水し、水不足にならないよう注意しましょう。

《出穂期以降》
～稲体の活力を維持し、登熟を向上！～
出穂期から20日間は**湛水状態**（田面が出ない程度）を保ち、稲体の活力を維持しましょう。

幼穂形成期から出穂期まで「飽水管理」

収穫5～7日前まで「間断かん水」



4 病害虫防除

本年も、斑点米カメムシ類が多発しています！確実に防除を行いましょう！！

畦畔の草刈りを徹底し、全品種2回の**基本防除を徹底**しましょう！！

○防除時期の目安（6月29日現在の見込みです）

	防除時期 (主な対象病害虫)	薬剤名	散布量 (kg/10a)	てんたかく (7/16 出穂)	コシヒカリ (7/31 出穂)	てんこもり (8/4 出穂)
粉剤	穂揃期 (いもち病・カメムシ)	ビームキラップジョーカー粉剤DL	3～4	7/18～20	8/2～4	8/6～8
	傾穂期 ※1回目散布の7日後 (カメムシ)	トレボンスター粉剤DL	3～4	7/25～27	8/9～11	8/13～15
粒剤	出穂10日前 (いもち病・カメムシ)	フジワラップ粒剤	4	7/6頃	7/21頃	7/25頃

※各品種の田植時期：「てんたかく」5/6頃、「コシヒカリ」5/11頃、「てんこもり」5/10頃で推定

《留意事項》

- ・防除の実施にあたっては、必ずほ場の生育（出穂）状況を確認しましょう。
- ・防除の際は、農薬使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。

○粒剤（フジワラップ粒剤）を効かせるコツ

- ・出穂10日前頃に水深5cm程度の状態で散布し、5日間湛水を保ちます。
- ・稲は、田水に溶けた薬剤を根から吸収するため、湛水が必要です。
- ・薬剤の大半は、散布後3日程度で吸収されます、**少なくとも3日間は浅い湛水**を守りましょう。
なお、田面が露出した場合は静かに必要な分だけ入水（深水は濃度が薄まり逆効果）しましょう。